

2. ヘルペス・ウイルス以外のウイルス感染に関する研究

③ HBs 抗原 Carrier の母親の児に及ぼす影響について

東京大学医学部小児科学教室

財 満 耕 二 白 木 和 夫
川 名 尚 吉 原 なみ子

目 的

HBs 抗原 Carrier の母親から生まれた児の予後を検討するために、児の奇形の発生、生下時の状態およびその後の成長と発育、さらに罹患状況に於いて臨床的観察と追跡調査を行なった。妊婦の1~2%がHBs 抗原のCarrier であることを考えれば、その児に及ぼす影響はきわめて重大であり、こうした点の解明は今後の予防対策の手がかりになると思われる。

対 象 と 方 法

- 1) 昭和44年4月より昭和50年10月までに本院産科で生まれた児のうち、母が妊娠中HBs 抗原のCarrier であったもの58例を対象とした。
- 2) 58例のうち23例は昭和47年より本院小児科にて、出生直後より経過を追って生長、発育、血清HBs 抗原、抗体、肝機能を追跡検討した。
- 3) 58例のうち残りの35例に対して、成長・発育、罹患状況などに関してのアンケートと共に来院の通知を出したが、実際に来院したのはそのうち7名のみであった。

結 果 と 考 察

- 1) 肝炎ウイルスによる奇形の発生： 小児科で追跡調査している23例および呼び出しにより来院した7例では外表奇形、内 奇形ともに発見されなかった。アンケート調査による12例でもとくに奇形を認めていない。HBs 抗原陽性の母親から生まれた児に、心奇形やHirschsprung 病があったという報告もあるが、

HB 抗原と児の奇形とを直接関連づけるような症例の報告は見当たらないので、現在のところ肝炎ウイルスの感染が奇形の発生に關与する可能性は少ないと思われる。

- 2) 出生時の体重、在胎期間などの検討： 生下時の状態では、58例の平均出生時体重が3274g、平均在胎期間が40週4日となり、標準より出生時体重においてやゝ大きく在胎期間では過期産の傾向を示すかに見えるが、統計学的には有意とはいえなかった。図1に58例の児の生下時体重と在胎週数を示した。次に出生時体重と在胎期間を考慮した子宮内発育曲線（船川値）により58例を分類すると、SFD児が5例（8.6%）、AFD児が46例（79.3%）、LFD児が7例（12.1%）、2500g以下の低出生体重児は58例中2例（3.5%）となり、妊婦の血中HB 抗原による早産ないし児の子宮内発育遅延への影響は全く認められなかった。
- 3) 児の成長と発育： HBs 抗原Carrier の母から生まれた23例中、HBs 抗原陽性化した4例および陰性6例の生後1年前後までの体重増加曲線を図2、3にそれぞれ示した。一部体重増加が低下し、標準体重の下限を保つような例もあるが、一般的に全身状態は良好で栄養状態もよく、HBs 抗原陽性例でも軽度の肝脾腫大を除くと、検査でもしないかぎり肝障害の存在を予測することはできないほどであった。精神運動面の発達でも、歩行開始の時期を例にとれば、判明した29例の平均で12カ月と正常と全く変わらない。HBs 抗原が存在しても児の成長・発育そのものには大きな影響を与え

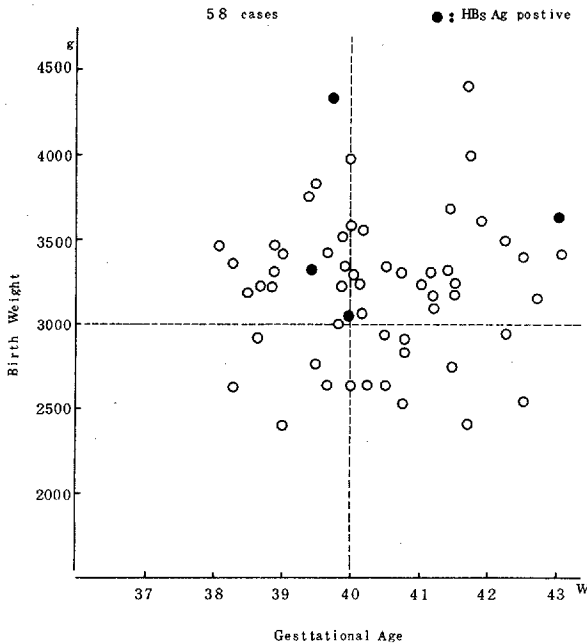
ないものゝようである。

- 4) 罹患状況： 臨床的に無症状のHBs抗原Carrierの母から生まれた児23例のうち、追跡調査で4例(17.4%)が生後4カ月以内にHBs抗原陽性となり、そのうち2例が慢性肝炎の像を示した。このことは肝炎ウイルスの母から児への垂直伝播Vertical Transmissionという意味で重要であると思われる。欧米の報告では児にHBsAgの感染が起こる頻度はかなり低いが、わが国の報告例では高い。つぎに新生児黄疸に及ぼす影響については、遷延した母乳黄疸1例を除いて著明な高ビリルビン血症を来した症例は見られなかった。また追跡調査している23例、アンケート調査12例、呼び出し来院7例計42例中、現在までに所謂新生児肝炎、関節炎、結節性動脈炎を思わせる臨床症状を示した症例はなかった。最近ネフローゼや慢性腎炎の原因としてHB抗原が注目されてきているが、現在までにそのような浮腫や血尿を示す症例は見られなかった。

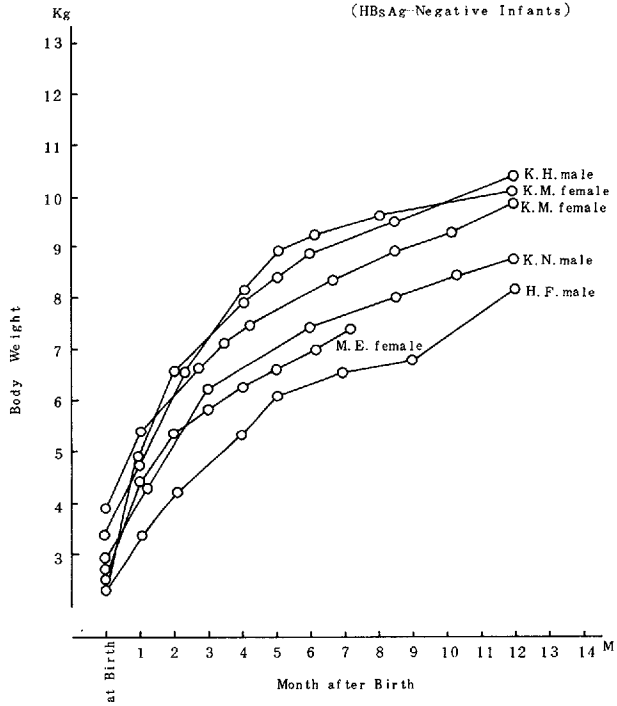
要 約

- HBs抗原Carrierの母親から生まれた児58例についての奇形の発生、生下時の状態およびその後の成長と発育さらに罹患状況を検討した。
- 1) 58例中42例に外表奇形、内臓奇形ともに認められなかった。
 - 2) 58例の平均出生時体重3274g、平均在胎期間40週4日と標準よりやや重く、予定日超過の傾向が見られた。
 - 3) 早産ないし子宮内発育遅延への影響は全く見られず、未熟児は58例中2例にすぎなかった。
 - 4) HBs陽性児4例、陰性児6例の生後の体重増加曲線は順調なカーブを示し、精神運動面の発達も正常と変わりがない。
 - 5) 新生児、肝炎、関節炎、腎炎等の症状を示す症例は見られなかった。

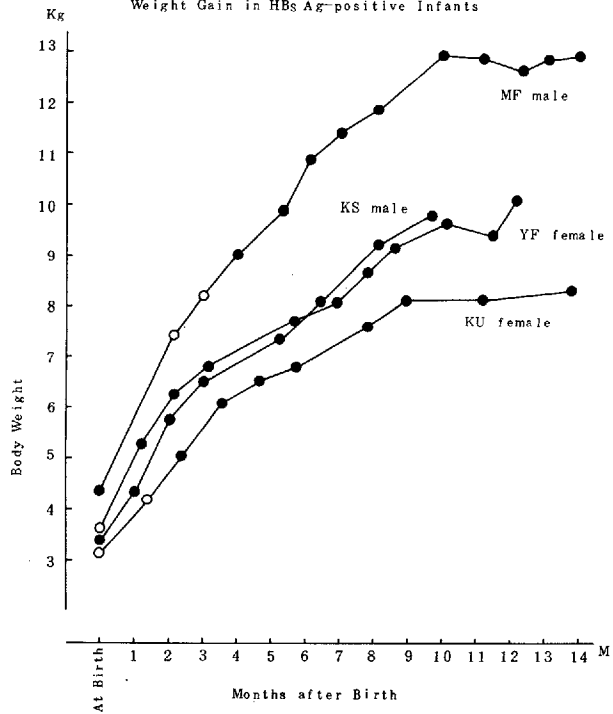
図 1 Birth Weight and Gestational Age of the Newborns of HBs Ag Carrier Mothers

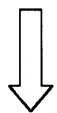


☒ 2 Weight Gain in Infants of
HBsAg Carrier Mothers
(HBsAg-Negative Infants)

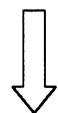


☒ 3 Weight Gain in HBsAg-positive Infants





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

HBs 抗原 Carrier の母親から生まれた児の予後を検討するために,児の奇形の発生,生下時の状態およびその後の成長と発育,さらに罹患状況にろいて臨床的観察と追跡調査を行なった。妊婦の 1~2&が HBs 抗原の Carrier であることを考えれば,その児に及ぼす影響はきわめて重大であり,こうした点の解明は今後の予防対策の手がかりになると思われる。